

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597800022		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム 徳佐あいおい苑		
所在地	山口市阿東徳佐中987-5		
自己評価作成日	令和元年10月25日	評価結果市町受理日	令和2年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和元年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の地を活かした支援を心掛けている。周りを山で囲まれ自然豊か、空気も新鮮であり時間がゆっくり過ぎる。地元の野菜やお米を使用し調理している。苑内には畑を設け利用者と一緒に野菜を育てている。育てた野菜は食事時に使用している。近隣の保育園や他施設、三世代交流、地域行事にも参加している。近隣の農場、リンゴ園など徳佐ならではの地域散策をしている。「1日1笑」、利用者が1日1回、笑う事をモットーに職員が一丸となり取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時には利用者がこれまでの暮らしを継続できるように、一人ひとりの暮らし方や趣味、特技、したいこと、できることなどの把握に努めておられます。日々の関わりの中で利用者に寄り添われ、利用者の言葉や表情、笑顔が見られた場面、気づきなどから、利用者がこれまでできていたことや、継続してやりたいことの把握に努めておられます。家族からの要望でもある家事活動を担ってもらったり、自力で食事をしたい利用者に補助具を工夫することで可能となったり、特技を生かして挨拶の場面づくりをされるなど、一人ひとりのできることややりたいことを伸ばしたり、継続できるように支援をされ、笑顔のある暮らしができるように取り組んでおられます。運営推進会議ではパワーポイントや映像使って利用者の日常の暮らしをわかりやすく報告され、事故防止についての話し合いを深めておられます。参加者からの、事故防止に向けた夜間外出時のグッズの紹介や入浴時のシャワーチェアの利用等の意見をサービス向上に活かしておられます。食事づくりでは、利用者の好みを聞かれ季節を大切に献立を立てられて、一人ひとりが自力で食べられるように食器や形態の工夫をされ、三食とも事業所で手づくりの食事を提供しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域特性を活かした理念を掲示、事務所など職員の目の届く所に掲示。職員会議等で理念を再確認している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は、月1回の職員会議時やカンファレンス時に話し合って確認し、共有して理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入、回覧版などで地域の情報を収集し共有している。保育園との交流は盛んでありお互いが行き来している。他施設なども夏祭りなどで交流を図っている。三世代交流、地域の祭りなどにも参加している。	自治会に加入し、回覧板で地域の情報を把握している。利用者と職員は、年1回、地域の婦人会が実施している「三世代交流会」や八幡様の祭り、社会福祉法人施設の夏祭りに出かけて、地域の人と交流している。利用者は、保育園の行事(運動会、クリスマス、入園式、卒園式)に職員と一緒に参加している他、2カ月に1回、保育園児の来訪があり、歌を歌ったり、遊戯をしたり、互いにプレゼント交換をしているなど、楽しみな交流を継続している。2週間に1回、ボランティア(歌や楽器演奏、フラダンス、銭太鼓)の来訪があり交流している。地域の人とは散歩時に挨拶を交わしたり、野菜の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。高校生の福祉実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会等を活用し住民、行政、家族等に発信しているが現状、相談は少ない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年同様に全職員に自己評価を実施。昨年の資料を振り返り再確認する機会にもなった。職員会議等で話し合い、お互いの摺合せで改善できることは取り組んでいる。	管理者は評価の意義を職員に説明し、自己評価をするための書類を職員に配布して記入してもらいまとめている。職員は、自己評価を日頃の支援の振り返りと捉えており、利用者のできることを伸ばしているかを話し合う良い機会となっている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、運営推進会議の議題に職員の研修計画を加え、事故発生に備えて救急救命法研修の受講や内部研修で表皮剥離や止血、三角巾の使い方等の実習に取り組んでいるなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催。事業所の現状について報告。事故、ヒヤリハット、職員研修状況等を報告、事故への取り組みには行政や他施設参加者などから対応策等、助言を頂いている。	新たに交番職員(警察署員)の参加を得て、会議は2カ月に1回開催している。利用者の状況や行事予定、活動状況、職員の状況と研修内容、事故、ヒヤリハット報告をして、話し合いをしている。パワーポイントを使って説明し、利用者の日常生活を6分間にまとめて上映しているなど、参加者にわかりやすいように工夫している。参加者からは事故防止に係る質問や意見が多くあり、夜間の外出時の事故防止グッズの紹介や入浴時のシャワーチェアの利用についての提案があり、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂いている。認定調査等、介護保険等関係で分からない事は相談している。	市担当者とは、運営推進会議時や電話、直接出向くなどして情報交換を行い、申請内容や手続きについて相談を行い助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議参加時に情報交換を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束はゼロである。施設内勉強会、・法人全体勉強会・外部研修等に参加し理解を深め、身体拘束ゼロのケアの継続に努めている。	職員は、「身体拘束廃止に関する指針」やマニュアルを基に、内部研修で学び、身体拘束の内容や弊害、虐待について正しく理解している。身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催しているが、これまで検討した事例はない。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者とは職員が一緒に出かけて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者がその都度指導している他、職員間でも注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回、身体拘束委員会、法人全体会議、外部研修、職員会議等で勉強会を実施し虐待に対する認識を高め防止に努めている。現在身体拘束はゼロである。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内に被成年後見人が生活している。後見人さん訪問時、情報交換している。職員は苑内、法人内、外部研修等に参加し自己研鑽に努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の意向を尊重し、苑内で出来る事、出来ない事をお互いが確認し理解、同意を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を外部、家族等から意見を 求めている。家族面会等の時に意見を聞いて いる。苦情受付窓口担当者、第三者委員 会を明示し苦情処理の手続きを明確に定め ている。	相談や苦情の受付体制、第三者委員を明示 し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説 明をしている。家族からは、面会時や運営推 進会議参加時、年1回の家族交流会、敬老会 参加時、手紙や電話等で聞いている。意見 箱を設置している。年1回家族相談員の来訪 があり、後日文書で報告がある。結果は苦情 相談記録や申し送り表に記録して職員間で 共有している。毎月、家族宛に事業所便りと 利用者の状況を送付し、緊密な関係づくり に努めている。身元引受人以外の家族から も希望があれば、利用者の状況を送付して いる。家族から、利用者に日々家事活動等 をやらせてほしいという意見があり、食事 や掃除、洗濯等利用者ができることを担っ てもらうなど、意見を運営に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の経営会議、職員会議にて業務の改 善等を図っている。年2回、職員の個別面 談にて職員の今の状況(心理的状況等)、今 後希望する部署など確認している。	管理者は、月1回の職員会議や月2回のユ ニット会議、委員会活動(身体拘束廃止、 広報、安全対策、環境整備、物品)の中 で、職員の意見や提案を聞いている他、 年2回、個人面談を行って聞いている。 職員から、利用者用トイレに暖房器具の 設置や入浴時のシャワーチェアの購入、 研修希望、資格取得希望、内部研修の 内容、勤務変更等についての意見や提 案があり、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働 時間、やりがいなど、各自が向上心を持 って働けるよう職場環境・条件の整備に 努めている	研修参加に意欲のある職員は進んで参 加してもらっている。月1回の経営会議 で現在の状況(職員、環境面等)を報告し 必要に応じ助言、改善事項として取り組 んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修意欲のある職員には研修に参加して頂く。月1回、職員会議の際、研修委員会を設け、勉強会をしている。外部、法人内研修は自主性に任せている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は介護支援専門員更新研修や福祉施設の食の安全対策研修等に6人が参加している。受講後は職員会議時に復命、伝達してもらい、資料はいつでも閲覧できるようにして職員全員が共有している。法人研修は、計画的に月に1回、外部講師を招いて、腰痛予防や働き方改革、各事業所研究発表等があり、参加できる人は全員参加している。内部研修は、研修委員が毎月1回、時宜を得たテーマを決めて、管理者や職員が講師となって、外部研修の伝達や嚥下、肺炎の予防と観察、避難訓練、感染症対策等を実施している。新人研修は法人で1ヶ月間の研修受講後、日常業務の中で、管理者や職員が指導者となって介護の知識や技術を学べるように支援している。同業者との交流を通して向上を図り、法人では資格取得の支援もしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の際、他施設職員、社会福祉協議会、行政などとは交流は図れている。全体会議で法人内職員と交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設内で提供できる事、出来ない事を確認しながら出来る限り利用者・家族の希望・要望に添える様に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前(申し込み等)の段階で家族から本人の様子、困っている事等を聴き、その後、入所前に本人と面会等を行い関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、家族、本人と面談し、希望、要望に耳を傾け、刷り合せている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にとってはグループホームは家である。利用者に役割提供(掃除機かけ、洗濯干し等)を行い自分の存在価値を確認してもらっている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の変わり目には衣類、布団などを持って来てもらい面会の機会を設定している。月1回、近況報告を家族に送付。面会時にも状況報告している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多く、近隣の神社やリンゴ園など季節に合わせて外出している。電話使用は自由であり、外出、外泊も家族の同意があれば可能である。	家族の面会や親戚の人、友人(同僚、近所の人)、知人の来訪がある他、電話や手紙、年賀状での交流を支援している。馴染みの美容院の利用や馴染みの神社へ参拝、馴染みのりんご園に出かけるなどの支援をしている。家族の協力を得て法事への参加や墓参、外出、外食、一時帰宅、外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、身体状況等を考慮しユニットに配置している。利用者間の関係作りには配慮し環境設定している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になっても本人、家族から相談があれば後方支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴、職業等を把握し、アセスメント、情報収集を行ない、本人が家とは変わらない生活が送れるように支援している。	入居時の独自の「生活領域アセスメント」を活用して趣味やこれまでの暮らし方の情報や要望、意向を聞いている他、日々の関わりの中での利用者の言葉や表情、笑顔が見られた場面、その時の対応、気づいたことなどを介護記録に記録して、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。自力で食べたい利用者の思いを補助具の工夫をして実現する支援に取り組んでいる。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴を大切にしながら日々のケース記録より現状把握に努め、本人の能力を活かせるような支援をしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録、発言等から本人の有する能力把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の会話等から本人の希望・要望を聴き、家族の面会の際には家族の意向確認、月1回、その情報等を基にケアプランの見直し、継続等を行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、月1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6か月毎に見直している。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録から本人の状況を確認、申し送りで共有、必要に応じプランの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	苑で出来る事、出来ない事を見極め、対応可能な事は対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状ある地域資源を活用しながら利用者が望む支援を提供している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医として定期的に受診、往診して健康状態に応じた早期対応にて支援している。	本人及び家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、2週間に1回、訪問診療がある。他のかかりつけ医の場合は月に1回、他科受診も含めて事業所が受診支援をしている。結果は家族には電話又は面会時に伝え、職員は医師の指示書や往診記録等で共有している。夜間や緊急時には「夜間緊急マニュアル」に添って判断し、管理者を通して医師に連絡して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者の状態に応じ必要があれば主治医に報告し指示を仰いでいる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には病院MSW、家族と連携を図っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状、苑でどこまで生活できるか、入所前に説明、重度化した際には他施設、病院等と連携を図りサービスが途切れないよう支援している。	重度化や終末期に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合(食事が食べられなくなった時、点滴注射が必要になった時)は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や関係者と話し合いをして、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書を活かし再発防止に努めている。外部、内部研修等で実践力を身につけるように取り組んでいるが全職員が身につけているかとは言い難いのが現状である。	事例が発生した場合は、発見者が事故報告書、ヒヤリハット報告書に原因、対応、予防策を記録して、ユニット毎に回覧して共有している。職員会議時に再度検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署による救急救命法とAEDの使用法の講習を2年に1回受講するようにしている。事故防止マニュアルがあり、内部研修で、表皮剥離、骨折、止血、三角巾の使い方等の演習に取り組んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練実施。1人1回は訓練に参加し方法は身につけているが時間の経過と共に忘れていく傾向であるので再確認が必要な状況である。地域との協力体制は構築されているが実践がないのが現状である。	年2回(内1回は消防署の協力を得ている)、夜間の火災を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を「防災マニュアル」に添って、利用者と一緒に実施している。災害時の連絡網には3名の地域の協力者があるが、避難訓練への参加者はない。非常用食品(水、食料)は備蓄している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンタードケア、スピーチロックなどの勉強会を実施。1人1人個人の意思を尊重したケアに努めている。	職員は、内部研修や管理者の言葉かけ(傷つけない言葉、命令口調でないこと)の指導を通して、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者が指導している。個人記録の取り扱いに留意し、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とはラポールを形成しており話しやすい環境設定をしており自己決定、自己主張できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人、1人、本人にあったペースでその人らしく生活して頂いている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目には家族の協力の基、衣替えを行っている。入浴後や起床の際、出来る方は好きな服を選んだり、化粧などをして頂いている。支援が必要な方は職員が支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者1人1人に合った食事形態で提供している。畑で採れた野菜など季節にあった料理を提供している。お盆拭き、台拭き、手指消毒など利用者の出来る事は取り組んでもらっている。	利用者の好みを聞いて献立を立て、事業所の畑で取れた旬の野菜や家族から差し入れの野菜を使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。食欲を高めるように季節感を大切にし、食べやすいよう形態の工夫や補助具、食器の工夫をしている。利用者は、野菜の下ごしらえや露の皮剥き、筍の皮剥き、テーブル拭き、お盆拭き、下膳、食器を拭いている他、おやつ(ホットケーキ、クレープ、おはぎ、お汁粉)づくりでは混ぜる、ひっくり返す、団子を丸めるなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、食材の話をしながら同じものを食べている。ウッドデッキでのお茶や季節行事食(おせち料理、七草がゆ、節句の寿司、土用の鰻、ソーメン流し、年越しそば)、干柿づくり、餅つきの他、家族の協力を得ての夕食や食事介助に来訪があるなど、食事が楽しみなものになるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に1人1人の食事量、水分量を記載して把握している。食事が少ない利用者が高カロリー食など栄養補助食品で対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声かけ、支援にて全利用者口腔ケアを実施している。歯ブラシやコップなどは週1回、消毒実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人、1人の排泄状況をチェック表にて確認、介助の必要な方は本人の排泄状況に合わせてトイレ誘導している。職員2名介助等、利用者に合わせた介助をしている。	排泄状況チェック表を参考にして、排泄パターンを把握し、不安や羞恥心に配慮した言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排便状況を確認し、申し送りしている。必要に応じ下剤等は調整している。便秘対策として運動・体操や水分補給などに努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	行事などがある際は入浴変更しているが基本、利用者の身体状況に合わせて支援している。残存能力を活かしながら自立支援をしている。2名介助が必要な場合、そのような対応をしている。	入浴は日曜日を除いて毎日、13時30分から15時までの間入浴ができる。順番や湯加減、入浴剤の利用、季節の柚子湯など、一人ひとりの希望に合わせてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで入浴時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や手浴、足浴、シャワー浴、部分浴、シャワーチェアの利用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後などはソファで昼寝をしたり、部屋に帰って昼寝をするなど利用者が好きなように過ごせる様にしている。ただ意思表示が難しい利用者は身体状況等を勘案して職員が対応している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表にて確認、薬を袋に入れる際に確認、運出職員が再度確認、服薬の際に確認と三度確認し誤配予防に努めている。飲み込みまで確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴、職業等を把握、現在の本人さんの身体状況等を把握し出来る事(掃除機掛け、お盆拭きなど)役割提供して本人さんが施設にいる目的・意義を見出している。	掃除(モップで拭く、掃除機をかける)やリネン交換(枕カバー、シーツ、布団カバーをはずす)、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物を収納する、カーテンの開閉、繕いもの、畑仕事(苗植え、草引き)、野菜の収穫(白菜、さつま芋)、客への挨拶、テレビやDVDの視聴、ラジオやCDを聞く、新聞や雑誌を読む、写真集を見る、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、習字、メモ日記を書く、食事の準備、おやつづくり、干し柿づくり、餅つき、外食、歌を歌う、カラオケ、壁画づくり、かるた、トランプ、オセロ、百人一首、しりとり、パズル、ゲーム(ドミノ倒し、魚釣り)、ボーリング、風船バレー、ラジオ体操、リハビリ体操、テレビ体操、棒体操、口腔体操、脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル、4字熟語、間違い探し)、季節行事(敬老会、運動会)、ボランティアの来訪、ドライブ、りんご狩りなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の特性を活かした散歩、散策を実施している。基本、外泊、外出は家族の協力があれば可能。他施設、保育園等の行事にも参加している。	近隣の散歩やウッドデッキでの外気浴、日光浴、近くの商店で買物、季節の花見(桜、菜の花、彼岸花)、馴染みの美容院の利用、ドライブ(自宅周辺、船方牧場で動物との触れ合い、足湯、りんご狩り、ブルーベリーのアイスクリーム屋)、初詣、保育園の運動会、地域の3世代交流事業等に出かけている他、家族の協力を得て外出、外食、買物、法事への参加等、本人の希望に添って戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所前に金銭管理について本人、家族と検討、自己管理の難しい利用者は苑で管理。少額管理可能な方は所持している。外出の際や嗜好品、化粧品など日用品など購入の際は自由に使用できる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用は自由。手紙のやりとりも自由、本人から依頼があればポストなどに投函している。年末には年賀状作成、利用者から家族に送付している。(介助が必要な利用者は職員がお手伝いしている。)		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの壁には季節ごとに利用者と壁画を作りその月にあった季節感を感じてもらっている。特に湿度には気を配り利用者の体調管理に努めている。	リビングは大きなガラス窓から差し込む自然光で明るく広々としている。大きな窓からリビングに続くウッドデッキに出ると、野山の豊かな自然が広がり、四季の移り変わりを目にするができる。室内にはテレビやソファ、机、椅子をゆったりと配置し、利用者がいつでも横になれるようにベッドが置いてあり、利用者が思い思いの場所でくつろぐことができるように工夫している。壁面には季節の作品が飾ってある。台所からは調理の音や匂いがして、家庭的な雰囲気を感じることができる。温度(床暖房設置)、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファなどがあり基本自由に過ごして頂いている。昼寝の際は部屋で過ごされる方も多い。何をするにして強要はしなく本人の意思に任せている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本、本人の部屋は自由である。孫の写真や使いられた物など配置も自由である。本人の意思を尊重している。	衣装掛けスタンド、衣服ケース、3段ボックス、サイドボード、時計、本、雑誌、ぬいぐるみ、鏡、整容道具等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真や誕生日カード、保育園児からのプレゼントを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除機掛けなど出来る事はして頂いている。洗濯物など自分で収納できる人は自分で行ってもらっている。バリアフリー化である。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム徳佐あいおい苑

作成日：令和 2 年 3 月 30 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が応急手当や緊急時の初期対応を身につけていると言い難い状況、全職員が対応できるように定期的、継続的に訓練、勉強会を実施する必要がある。	全職員が応急手当や緊急時の初期対応ができるようになる。	外部評価への参加、内部研修での勉強会に参加し各職員が自己の研鑽に励み、緊急時や応急手当ができるように努める。	12ヶ月
2	36	災害時の地域との連携、協力体制には不十分な面がある。支援体制を構築する必要がある。	災害時等の地域との協力体制の構築	年2回の消防訓練の実施、その際の反省点などを職員会議等で共有する。地域の方には回覧板などで共有する際にコミュニケーションだけではなく防災に対しても共有し参加して頂くように働きかける。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。